

平成29年9月
市議会定例会

市長演告

多 久 市

平成29年9月27日

平成29年9月市議会定例会を招集し、議員各位のご出席のもと始まる、市議会の開会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、先の市長選挙において、結果的に無投票当選となりましたが、市民の皆様の付託を受け、市政運営の重責を担うこととなりました。改めて身の引き締まる思いです。多久市の更なる発展や自治体経営の進展に尽くし、市民の皆様の期待と信頼に応えるべく、市政運営に真摯に真剣に取り組む決意であります。

議員各位並びに市民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

また、平成29年7月九州北部豪雨やその他の災害により犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。近年は全国で記録的大雨による被害が発生しており、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

本市におきましても、いつ起こるかもしれない災害に備え、市民の皆様の安心・安全確保のため万全の態勢を整えていきます。

国政においては、安倍首相は8月3日に第3次安倍第3次改造内閣を発足させ、「結果本位の仕事人内閣」と命名し、①東日本大震災等からの復興加速、②人づくり革命断行、③1億総活躍社会実現、④世界の中心で輝く日本を挙げ、「内閣の総力を挙げて推し進める」との基本方針を決定されました。

しかし、ここに来て、国政が大きく動こうとしています。一昨日9月25日の記者会見で安倍首相は、明日28日に召集される衆議院を冒頭解散すると表明されました。背景として、消費税の増税分の活用を社会保障と借金返済から子育て支援と人づくり支援にシフトするとも述べられたところですが、社会保障の財源不足は消費税2%分では必ずしも永続的に賄いうる状況ではない厳しさが、総選挙公示日から各党・各候補による、国家経営のあり方、国民生活と仕事に関わる政策、次世代活躍への施策など、政策討論に注目が必要です。

それでは6期目の市政に関する所信の一端を申し述べます。

この度の市長選挙においては、「初心を忘れず、経験を活かし」、日々新たに「CREATE 創造」「CHALLENGE 挑戦」「CHANGE 変革」の3つのCを掲げました。

最初の「C」は「創造 Create」です。

まず、①「未来を担い活躍するICT教育の推進」です。

近年、少子高齢化や人口減少傾向が続く、定住人口増加、子育て環境充実、地域活性化などの対策が急務です。「多久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、定住人口・交流人口増加に取り組むとともに、安心して子育てでき

る環境整備、誰もが住みたいと思えるまちづくりをめざします。特に、将来の子育て世代増のために、質の高い教育の一環として ICT 教育は重要です。今や第4次産業革命の渦中にあり、子どもたちが活躍する未来では改革はさらに進み、そこで活躍し、自身の人生を向上できる環境整備が重要です。

ICT 教育は、多久市も平成21年度に電子黒板・校務用パソコン整備を行うなど全国的にも早い段階から整備推進してきました。田舎・都会の別なく、先端技術に触れて学び、個性を伸ばし、生きがいをもって活躍して欲しいとの願いから力を注いでいます。今年度は、クラウド環境で学習系・校務系のネットワークを構築し、国内最先端の ICT 機器とネットワーク環境の整備を行い、多久市にいながらも世界で活躍できる人材育成を推進します。

次は、②「市民の『楽習』拠点となる新図書館整備」です。

新図書館整備につきましては、これまでの「生涯学習拠点としての図書館」から、新たな図書館像である「生涯学習の場としての機能を持ち、すべての市民が気軽に日常的に利用でき、市民がつくり育てる、知・憩・交流の拠点としての図書館」を基本理念とし、実現に向けて検討を進めていきます。利用者スペースの配置や蔵書選定、館内サービスや周辺環境整備等の検討では、特に子育て環境充実を視野に入れた図書館づくりに努めます。さまざまな年齢、世代、地域の人々の学びの場として、生活や仕事に役立つ情報を得るとともに、図書館に来訪する全ての人がゆっくりと心豊かに過ごせるくつろぎ空間・交流の場として、市民に親しまれ、市民の「楽習」拠点となる図書館づくりを目指します。

次に、③「健康長寿の『健幸』づくりを充実展開」です。

健康は全ての基本です。健やかで幸福な人生百年をサポートします。市民の皆様元気な暮らしには、健康寿命の延伸が最重要です。健康診断や保健指導の充実で、健康増進啓発や生活習慣病予防に努めます。今年4月より取り組んでいるスマホアプリを利用した個人の健康記録（PHR）管理モデル事業も全国的に最先端の取組みです。「がん」対策では、予防はもちろん、早期発見・早期治療がより可能となるよう、今後も受診率向上に努め、市民一人ひとりが健康づくり・健康維持を「自ら行う意識」をもって取り組む環境づくりを推進します。

二つ目の「C」は「挑戦 Challenge」です。

まず、①「新時代を拓くシェアリングシティの推進」です。

多久市では、シェアリングエコノミー先進的取組み団体の代表者を招いて連続して研修会を開催し、昨年11月には全国初のシェアリングシティ宣言を5自治体で行いました。これらにより、多久市はシェアリングシティ先進自治体と

して全国的認知度が高まり、視察も相次いでいます。民間研究機関や内閣官房、国土交通省のほか多くの自治体からの視察もあっております。多久駅前に整備した「多久市ワーキングサポートセンター」を拠点に、在宅ワークのクラウドワークス、体験型観光の推進としてはタビカ（TABICA）と連携し、新たな働き方創出や観光誘客増加を図っています。今後は、地域おこし企業人としてタビカ・スタッフの多久市への派遣を受けて事業充実を図ります。

次に、②「街灯整備促進で明るく安心安全なまち」です。

通学路・生活道路において夜間の安心安全の確保を図り、犯罪被害の未然防止のため、また景観の視点からも、街灯設置は重要です。囑託員をはじめ多くの皆様からご意見を聴きました。現状は限られた整備数に不足感があり、改善が必要です。電球のLED化助成も明るさ拡充や維持管理に有効です。街灯・防犯灯は厳密には定義に区別があるものの、生活者目線で見れば、明るく安心な街が大切ですから、改善できるよう進め方も創意工夫していきます。

次に、③「広域クリーンセンター整備と地方創生」です。

多久・小城地区の一般廃棄物ゴミ処理の新施設である広域クリーンセンター整備は、基礎自治体の重要な事務事業であり、市民生活に不可欠です。多久市と小城市で天山地区共同環境組合を設立し、平成32年春の供用開始に向け、両市が密に連携し推進しています。隣接地に資源循環型社会構築のため多久市マテリアルリサイクルセンターを建設し、供用開始時期を合わせた完成を目指します。施設整備とともに、立地に理解を頂いている地域への振興対策も行います。

次に、④「新たに栄える産業づくりをめざす」です。

旧ゆうらくの施設を活用した温泉保養宿泊施設整備は9月末に改修工事完了予定で、10月に施設利活用事業者へ引き渡します。その後、準備が整い次第、営業開始となります。この施設再生活用は多久版・地方創生戦略の主要施策に位置付け、雇用の創出、観光客の誘致、交流人口増加、市内経済の活性化を目指します。

農業、商工業の振興についてもこれまでの取組みをさらに高めよう、政府や佐賀県の諸施策活用、JAや商工会との連携、ネットワークの活用、企業誘致や起業支援なども含め、官民の取組み情報を的確にとらえ、積極的に対応し、足腰の強い元気な産業づくりをめざします。

三つ目の「C」は「変革 Change」です。

最初に、①「脱マンネリで日々新たな行政を創造」です。

6期目にあたり最も自戒すべきは、マンネリに陥らず、諫言を活かし、常に変革を心がけることです。その大事さは古来より警鐘が鳴らされ、帝王学の古典に

も記されており、日に日に新たな努力が肝要です。慣例や習慣に流されず、本来何をめざし、どんな配慮の施策かという本質も見究め、絶えざる改善改革が重要です。担当現場で気づく改革の種も活かします。推進中の、平成31年度を目標年度とする「第9次多久市行政改革大綱実施計画」、32年度が目標年度の「第4次多久市総合計画後期基本計画」「多久市過疎地域自立促進計画」を推進します。

次に、②「希望と勇気で誰もが輝く福祉の充実」です。

希望と勇気は、人生を生き抜き、その人らしく輝くために重要です。福祉については、一人ひとりが住み慣れた地域で、生きがいを持って安心して生活できるよう、地域の協力や見守りネットワークなどの支える体制を高め、公的サービス活用で安心な暮らしを確保するなど、健康増進と生きがいを踏まえ、高齢化社会を見据えた事業に取り組みます。老人福祉センター（むつみ荘）機能については、新たな温泉保養宿泊施設T A Q U Aの一部に移転します。

子育て支援にも力を注ぎます。今春オープンした「多久市児童センター・あじさい」は、子どもたちやご家族など多くの利用があり、好評です。当初予想の1年間で利用者2万人を、オープン5か月目の8月末で超えた盛況ぶりです。今後も相談業務の充実や様々なイベントを企画するなど施設運営向上に努めます。

次は、③「生涯安心の医療を新病院で充実」です。

「新多久市立病院改革プラン（平成28年度～32年度）」を策定し、経営の効率化、経営形態見直しに加え、県の地域医療構想を踏まえた病院の役割明確化を反映する内容でまとめています。その中でも、多久市立病院と小城市民病院の再編統合について、検討会議提言にある方向性を基本に、本市の重点事業のひとつに位置づけ、再編統合と県内医療の向上に向けた協議をし、推進を図ります。

これらが6期目に力を注ぐとした政策項目ですが、この他に、定住政策では子育て世代定住を図る創意工夫、マイナンバー本格運用と情報提供等記録開示システム（マイナポータル）の対応、総務省の地域IoT実証推進事業、女山トンネルの早期開通、佐賀唐津道路の推進、農業インフラ整備の推進、仮称多久消防署南西出張所の建設、国体開催への弓道場建設などあり、鋭意努力していきます。

以上、所信の一端を述べました。多久市長として5期20年間務めた経験を活かし、初心忘れず、市民に役立つ市役所を基本に、「住みたい美しいまち」、「緑園に輝くーみんなで作る文教・安心・交流のまち」へ、市職員と一丸となり、

力を尽くして参ります。

かつて歴代首相の施政方針演説に朱筆を加えた碩学に安岡正篤先生がおられます。安岡先生は多久にも来訪され、「丹邱学苑」の揮毫を遺されています。当時の多久中学校初代校長・西河堂大樹（林 盛達）先生を訪ねられたようです。西河堂先生の『進徳修業～ある教授の志』の中に、多久と丹邱のことが記されています。「多久は景勝の地でもあったから、多くの詩人や文人がいて、土地の雅名として多久を『丹邱』と呼んだ」。丹邱とはもともと丹丘と書き、仙人の住むところで、昼夜光り輝き、万事明朗で理想的な国である仙境という意です。

多久では孔子の名「丘」の字の使用を控えて、「丹邱」と書いたのです。さらに同書には、「万人周知の如く、子弟の教育如何によって、一家は興廢し、一郷は隆賛し、一国は盛衰する」という警鐘もあります。先生は、丹邱をめざす志のもと、「丹邱学苑」という地域社会学校を昭和22年より7年間、実践されたようです。それは校長在任期間と一致しています。元々は大正14年に安岡先生門下に入門されており、安岡先生は門下生激励にお越しになったのだらうと拝察します。

その「丹邱学苑要項」の「学道の目標」には、「自他の自覚を促し、人間としての今日を高める。現代に生きる道を学び、社会生活の向上をはかる。国および世界に対する理解を深め、地域社会の改善につとめる。芸術や道徳を解する心境を拓き、不良防止の徹底を期する。善隣・協調・奉仕の習慣を養い、世界の平和と人類の福祉に寄与する」とあります。いずれも現代に通じる教えです。まさに「一隅を照らす」人生の輝きをも見る思いがいたします。お互いに、未来のため研鑽を積まれた先人を範とし、さらに高みをめざしたいものです。議員各位、並びに市民の皆様におかれましても、何卒、ご理解ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、市長演告と致します。